

「孤独とつながる」

◆ 孤独は怖い。人と一緒にいるのに、孤独を感じることさえある。だから用事もないのにスマホを開く。誰かと、いや何かと「つながろう」とする。だけどその先に、この穴を埋めてくれる何かがあるのだろうか。

◇ 孤独な人間は独りきりであり、それゆえ「自分自身と一緒にいることができる」。人間は「自分自身と話す」能力を持っているからである。換言すれば、孤独において私は「私自身のもとに」、私の自己と一緒におり、だから一人者のうちにある二者Vである。

——ハンナ・アーレント（哲学者）

◆ 孤独とは「ひとり」のではなく、自分と自分の「ふたり」でいられることだというのだ。孤独から逃げるのではなく、ときにあえて孤独になる。そう、自分の意思で。そのとき、やっと自分の本当の声を聞こえてくる。他人の目を気にして、無理に自分を変えたり、抑え込んだりしてないだろうか。本当の自分は何をいつているのだろうか。もっと自由になっ
ていいのではないか。

孤独——。それは本当の私とつながれる唯一の手段。

— 天理のことば —

しんぢつにをもてゞよふとをもうなら

心しづめてしんをたづねよ

(おふでさき 四号84)

〔解釈〕

真実に明るい道に出ようと思うならば、心を静めてしんを尋ねよ。

「しん」とは天理教の教え。教祖様のご存在。人間創造の元の場所である「ぢば（天理）」。

そして、自分の本心もしんであるといえる。

陽気ぐらしの天理教